

5 『看病用心抄』の著者について

関根 透

『看病用心抄』の著者は、一般に浄土宗の第三祖・然阿良忠記主禪師と言われている。しかし、私が入手した現存の三種の写本には、明確に良忠上人が著わしたとされる記述は示されていない。

最も古い写本は、貞治三年（一三六三）に存覚上人によって書写されたと言われる『看病用心抄』である。これは京都の常楽台に保存されており、漢字と片仮名交り文で書かれている。この写本の奥書きには、「大願円満看病用心抄 本云鎌倉上人御作 私云然阿弥陀仏良忠也」と示され、筆写した存覚上人が鎌倉上人のことを、良忠上人と推測しているようである。当時京都では、鎌倉で活躍し、著名な僧侶を鎌倉上人と呼んでいたの、明確に鎌倉上人を良忠上人だと断定できないように思われる。

次に、応永二十年（一四一三）に隆堯によって筆写された『看病用心抄』は、安土の浄厳院に所蔵されている。この写本は、漢字と平仮名交り文に示され、前者の写本と仮名文字が異っている。この奥書きには、「此用心書案悟真寺上人作也」とある。つまり、書写した人が、この『看病用心抄』を悟真寺上人の作ではないかと推測している。『鎌倉光明寺文書』によれば、悟真寺上人とは良忠上人であることは確かであるが、この『看病用心抄』の作者が悟真寺上人であるという証明にはならない。

三種目の写本は、大変新しい『看病用心抄』である。これは昭和二十八年（一九五三）に金沢文庫長・熊原政男氏が、昭和二年（一九二七）に石井教道氏が大崎桐ヶ谷の専修寺に伝わる『看病用心抄』を筆写したものを、更に書写したものである。専修寺の『看病用心抄』は「今次戦災ニ消滅セリ」とあり、また大正大学の石井氏筆写の『看病用心抄』も「戦後の混乱期に紛失せられた」とのことであった。金沢文庫所蔵の熊原氏書写の『看病用心抄』奥書には、石井氏が『看病用心抄』に遭

遇した経緯と熊原氏が書写した様子が示されているだけで、作者を推察させるような記事は示されていない。この写本は前二書の写本と異なり、条文の数も多く、前書きの文章も全く異っている。しかし、これら三種の写本は語句や構成が同様であり、同じような本から筆写されてきたものと思われる。

この『看病用心抄』は一二四〇年頃に、良忠上人によって著わされたとされるが、その頃は良忠上人は四十歳ぐらいで、筑紫の天福寺で聖光上人に接し、第三祖として「末代念仏授手印」を授けられた頃である。

また、良忠上人が弘安十年（一二八七）に入滅されたが、その翌年、正応元年（一二八八）に著わされた『然阿上人伝』の著作目録にも『看病用心抄』は示されていない。更に、光明寺から出版された『記主禪師の生涯』の著作目録にも示されていない。

しかし、次の三名の良忠上人研究者は、『看病用心抄』の作者は良忠上人以外に考えられないと述べている。

まず、鷲尾教導氏は『浄土大意』の「善知識の事」から、『看病用心抄』の作者を良忠上人と推定している。

鈴木成元氏も『浄土大意』と『看病用心抄』とを比較して、これらは姉妹関係にある著作として、良忠上人を作者であると断定している。また、伊藤真徹氏は、良忠上人は当時の『往生要集』の権威者であり、『看病用心抄』の作者は良忠上人以外には考えられないと述べている。

以上のことから、『看病用心抄』の作者は然阿良忠上人と考えられるので、良忠上人の思想を調べ、浄土宗における当時のターミナル・ケアを念頭において『看病用心抄』の医の倫理観について再考したいと思っている。

（鶴見大学歯学部）